



乾杯挨拶

芙蓉会会長

守屋 敏道

皆様こんばんは。芙蓉会会長をしております、守屋でございます。毎年、乾杯の発声の栄誉をいただきまして誠に光栄に思っております。今年度入られました84名の新入会員の皆様、入庁おめでとうございます。これから知的財産制度、特許制度及び意匠制度の中核をなす審査官としてますます活躍できるよう、一層研鑽して特許庁を盛り上げていただけたらと一同期待しております。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、先ほど、長官、特許技監から世界最速・最高品質の審査を進めていくというお話がございました。私は仕事柄、中国の特許情報に接する機会が多いわけですが、最近の中国の特許出願状況を見るにつけ、日本の特許庁が世界をリードする審査をしていかなければならないと、つくづく思っております。



データを調べましたところ、2015年の中国の特許出願、実用新案出願、意匠出願は、トータル280万件ありました。もうそろそろ頭打ちじゃないかということで、今年はどうなのかと見てみますと、それがまた、昨年に比べて約30%増を続けております。この6月末までで特実・意匠合わせまして153万件近くになっています。もうひとつ驚くべきは、直近で何が起きているのか分からないのですが、この6月だけでも特許と実用新案と意匠合わせて34万8千件という出願件数に上っているということです。

このような状況の中で、尊重すべき権利と、そうでない権利とを仕分けるのが審査であり、この審査が、非常に重要になってきているのではないかと思っております。小柳特許技監がおっしゃられたJPOの審査手法を中国やインドに輸出していただけて、良い権利だけが登録されるようにしていただけたらと思っております。

是非とも、特許懇の会員の皆さんが力を合わせて、グローバルスタンダードで世界をリードする審査をされることを期待いたしまして、乾杯の方に移らせていただきたいと思います。

それでは、特許懇と特許庁の益々のご発展と、今日ご参列の皆さまのご健勝を祈念いたしまして乾杯をいたしたいと思います。ご唱和ください、乾杯。

